

普及活動情勢報告（平成30年7月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

産地分析でグロリオサ経営のレベルアップを推進



経営改善のポイントを説明

7月19日、三里複式簿記教室メンバーを対象に、経営改善勉強会を開催しました。メンバーの経営・出荷データ5年分をもとに、産地の出荷・経営成績の傾向を説明し、「秀品率・反収・経費」の3点に注目した経営改善の方向性を紹介しました。

「自分の経営を、他と比較したことがなかったため、新鮮な発見があった。」との意見があり、今後は個別カウンセリングで、個々の経営目標にあった改善策を一緒に考えることにした。

花き経営が、目標をもって取り組めるよう普及所では栽培と経営の両方から支援を続けていきます。

キュウリの黄化えそ病対策



キルパー処理後の調査

J A高知春野管内のキュウリ栽培では、黄化えそ病が問題です。対策のひとつとして、栽培終了時の蒸し込みにキルパー薬剤処理を勧めています。6月20日、生産者5名参加の下、キルパー処理の現地検討会を開催しました。普及所は、処理後にハウス内のアザミウマ類の生存確認を行いました。その際、処理72時間は無臭でしたが、若干目に刺激がありました。処理96時間後には刺激は無くなり、アザミウマ類はホリバーに全く付着しませんでした。残る生産者4名もキルパー処理を行う予定です。

今後は、J A高知春野と連携し、抑制キュウリ栽培終了後に実証試験を行う予定です。

水稻の現地検討会が開催されました



'よさ恋美人'の生育確認中

7月12日に、JA高知市稲作部会の現地検討会が開催され、30名の農家が参加しました。今年度試験を行っている'よさ恋美人'の早進化栽培・肥料試験等、合計6カ所のは場を訪れ、普及所からは、試験の概要と生育調査の結果を報告しました。

参加者は、'よさ恋美人'について「いつ頃収穫できそうか?」「肥料は何がよいか?」等の情報交換を行っていました。

今後も普及所は、実証状況や結果の情報提供を行い'よさ恋美人'の普及推進に取り組んでいきます。

ユズ組合が現地検討会を開催



ユズの生育状況調査

7月20日、高知市土佐山柚子生産組合が高知市行川地区と宗安寺地区で現地検討会を開催し、組合員や関係者が22名参加しました。両地区の4園を巡回し、園地状態、樹勢、着果、病虫害発生状況を視察しました。着果は昨年より良く、園地状態や樹勢は良好でしたが、本年はカミキリムシ類の発生が多いとのことでした。普及所からは、今年の夏は暑いので、今後かん水やハダニの発生等に注意することを情報提供しました。今後も、普及所はJAと連携しながら、柚子部会発展のために、栽培管理の指導や最先端の取り組みの情報提供を行っていきます。

(ノウ) 梅ノ木ファームが集落営農法人ネットワーク高知に加入しました



総会の様子

7月10日に四万十町影野町民会館において、集落営農法人ネットワーク高知の総会が開催されました。4月16日に農事組合法人となった梅ノ木ファームへ参加を勧めたところ、理事2名が総会および交流会に参加しました。総会では、集落営農法人ネットワーク高知の活動実績と計画などを協議しました。また、他県や四万十町仁井田の集落営農についての講演や取組事例を聴き、今後の組織活動のヒントを得ました。今後も、普及所は(ノウ)梅ノ木ファームのPDCA活動を支援していきます。

普及推進協議会で普及活動についてご意見をいただきました



普及指導計画を説明

6月13日に普及推進協議会を開催し、生産者と関係機関の方々から今年度の普及指導計画について意見をいただきました。普及所から、重点プロジェクトやキュウリの産地維持と生産安定、安定供給できるユズ産地の維持拡大などの総合課題計画の説明、および産地提案書による担い手の確保育成の取り組みについて状況を報告後、意見交換を行いました。協議会委員からは「キュウリの新技術の現地検討会は、地区ごとに開催したらもっと集まる」、「ユズのトゲ無しへの改植が進んだら、雇用も確保しやすい」等、様々な意見が出ました。今後も、普及所は意見を参考に関係機関と連携し、生産者の支援に努めます。